

湘南フィルハーモニー合唱団 第27回演奏会

Mendelssohn und Brahms

Symphonie Nr. 2 “Lobgesang” Op. 52

メンデルスゾーン 交響曲第2番「讃歌」作品52

Nänie Op. 82 / Begräbnisgesang Op. 13

ブラームス 哀悼の歌 作品82 / 埋葬の歌 作品13



指揮 松村 努

独 唱 ソプラノ 松原有奈 テノール 望月哲也

第2ソプラノ 松本真代

管弦楽 グロリア室内オーケストラ

合 唱 湘南フィルハーモニー合唱団

2019年4月29日（月・祝）開場15：50 開演16：30

すみだトリフォニーホール 大ホール

■チケット 2月1日より発売 SS席 ¥4,000 S席 ¥3,500 A席 ¥3,000 B席 ¥1,500

■チケット取り扱い チケットぴあ

お問い合わせ 鈴木 045-984-3371 ホームページ <http://sho-phill.com/>

後援 神奈川県合唱連盟 / JCDA 日本合唱指揮者協会

画像はカラー「冥府のオルフェウス」 Wikipedia から使用

■湘南フィルハーモニー合唱団のご紹介

湘南フィルハーモニー合唱団は1985年茅ヶ崎市で発足、団員は147名。オーケストラと共演する合唱曲の演奏を目的として活動しています。1989年にお迎えした松村努先生の優れた指導力と高い音楽性によって徐々に力を付け、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス等の宗教曲の名曲を演奏して参りました。

2010年の第20回の記念演奏会では初めての世俗曲、カンタータ「カルミナ・ブラーナ」を取り上げ、それまでと異なる貴重な経験も致しました。

2011年、大震災による練習場確保の困難な状況を体験した後のヴェルディ「レクイエム」は被災した方々への心からの祈りを込めた演奏となり、2012年のオラトリオ「パウロ」はすみだトリフォニーホールで初めての東京公演。2014年のみなとみらいホールの大雪の中の演奏会、更には2016年1月、選啓をお迎えの松村先生を祝う「ダイヤモンドコンサート」では参加13団体合同による「カルミナ・ブラーナ」の演奏など思い出深いコンサートの数々も団員の心に刻まれております。

一方、カトリック茅ヶ崎教会のご協力を頂き、1991年から毎年12月に行われてきたクリスマス・チャリティ・コンサートは、聖堂という祈りの場をお借りし、神父様のお話を伺いながらの温かい雰囲気での演奏会として続けられており、今年、第29回目を迎えます。

■演奏曲目について

メンデルスゾーン 交響曲第2番「讃歌」op.52

この曲は1840年、グーテンベルグの印刷技術発明400年の記念としてライプツィヒ市からの依頼により作曲され、バッハゆかりの聖トーマス教会で初演された。メンデルスゾーンは交響曲を5曲作曲しており、この作品は後ろから2番目に作曲されたのだが、出版の順序が後先になったことから第2番と呼ばれている。

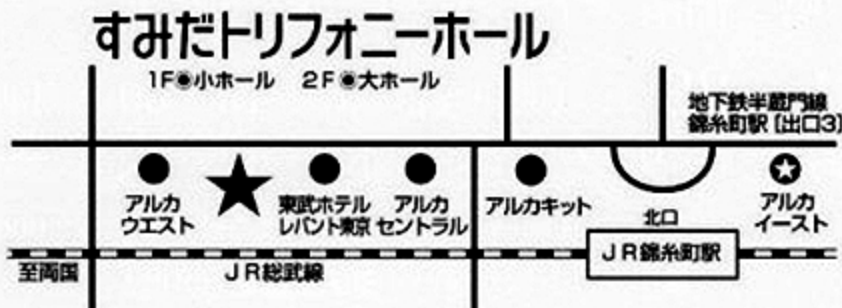
初演時は「交響カンタータ」と呼ばれ、二管編成のオーケストラ、オルガンとソプラノ・ソロが2人、テノール・ソロと混声4部合唱という大規模な編成で演奏される。冒頭トロンボーンによって奏される2小節のモチーフが全曲を通してのモットーとして“神への感謝”“神への信頼”“闇の世界から光への脱出”のテーマを盛り込み、印刷技術によって聖書が一般の人たちの手に入るようになり、文化の普及「闇から光への脱出」に貢献したことを讃えている。

ブラームス「埋葬の歌」op.13

ブラームスが25歳の頃作られた管楽器と混声4部合唱の作品。ミヒャエル・ヴァイセの詩は、神に召された者の平安を祈り、残された人々を励ます言葉に溢れている。後に作曲者の出世作となった「ドイツ・レクイエム」への試みと見ることもできる。

ブラームス「哀悼の歌」op.82

親しい友人のフォイエルバッハの死を悼み作曲され、故人の母親に捧げられた。詩はフリードリヒ・フォン・シラー。美しいものも滅びる運命にあると歌い始め、愛された人々によって、悲しみの歌が歌われるのも素晴らしいことだと結ばれる。管弦楽と混声4部合唱による慰めに満ちた作品。



お願い

※未就学児の入場はお断りしております。